

## 令和7年度第1回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

### 1 開催日時

令和7年（2025年）5月23日（金）14時50分～17時05分

### 2 開催場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

### 3 出席者

出席委員（6名）

田中 貴宏、角倉 英明、今川 朱美、高田 由美、吉田 幸弘、中村 圭

欠席委員（1名）

塚本 梓織

### 4 議事

- (1) 広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」（仮称）整備事業について（1回目会議）
- (2) 浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（2回目会議）
- (3) 平和大通り公園整備事業（第1期整備）について（報告）

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴者

一般傍聴者 3名

報道関係傍聴者 1社

### 7 会議資料

会議次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、議事資料

### 8 会議要旨

- (1) 議事1 広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」（仮称）整備事業について（1回目会議）

議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

#### ア 保存部分と増築部分の境界について

大事なポイントであるため、調和（同調）させるのか、対比させるのか、保存部分の範囲、形も含めてよく検討してほしい。

#### イ 屋上の見え方について

周辺施設から見える上からの視点と森戸道路側からの視点に配慮し、屋上の設備機器等が見えづらくなるように工夫してほしい。

#### ウ 正面入り口のバリアフリー化について

残す部分とのバランスに配慮し、確実にバリアフリー化してほしい。

#### エ 保存の仕方について

他事例を参考にしながら、E型の建物の面影が残るような保存の仕方と、増築部分は、新しい時代に先駆けて、際立ったものを造る考え方も検討してほしい。

オ 建物と市民の方々の交流について

森戸道路側だけでなく、東千田公園のポテンシャルを生かすような工夫をするなど、公園と建物の境界の部分のデザインに配慮してほしい。

(2) 議事 2 浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（2回目会議）

1回目の会議での委員からの意見等を踏まえた設計内容について説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

ア 照明計画について

照明計画については、各諸室の機能を踏まえたものにするとともに、外部からの見え方にも配慮してほしい。

イ 「守る」空間と「開く」空間について

対照的な「守る」空間と「開く」空間を共存させるという設計コンセプトの魅力を表現したデザインしてほしい。

ウ 「Link space」について

本施設の魅力となる「Link space」（共用エリア）については、その使い方や空間について、効果的にデザインしてほしい。

エ 前庭について

日射の影響を考慮するとともに、人が集まりやすい仕掛けを施し、また、どのような施設かが分かるきっかけづくりの工夫についても検討してほしい。

オ 縮景園からの見え方について

縮景園の園路に隣接する本整備場所北側の植栽計画については、縮景園からの見え方に配慮してデザインしてほしい。

カ 外壁の仕上げについて

時を重ねるごとに風格が増していくという外観計画のコンセプトに合った仕上げを検討してほしい。

キ 内部と外部のつながりについて

照明や日射の光、施設を構成する素材の質感等により、内部と外部がつながっているように感じる中間領域のしつらえを検討してほしい。

(3) 議事 3 平和大通り公園整備事業（第1期整備）について（報告）

これまでの検討での委員からの意見等を踏まえた最終的な設計内容について報告を行った。

今後の管理など、引き続き注意してほしい事項については次のとおりである。

ア 本市のシンボリックな通りであることについて

通り全体のビジョンを考え、質の高いものを目指してほしい。

イ デザインについて

ここにしかできないデザインを追求してほしい。

ウ トイレについて

利用者に配慮して、庇や雨樋を設置してほしい。

エ 展望デッキのベンチについて

背もたれのないベンチにするなど、種類を検討してほしい。

## 【会議概要】

### ○地井都市デザイン担当課長

(開会挨拶、配布資料確認、出席者紹介及び議事説明)

### ○田中座長

それでは、本日の議事(1)「広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」(仮称)整備事業について(1回目会議)」の説明をお願いします。

### ○井上施設整備担当課長及び設計業務委託者(株式会社山下設計 箆島氏)

(議事(1)「広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」(仮称)整備事業について(1回目会議)」の説明)

### ○田中座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

### ○今川委員

コンクリートの圧縮強度を調査したところ、12か所のうち、5か所が少し基準に達しておらず、耐震診断をしたところ、一階部分は地震に対する危険性が高いという結果になったと聞いているが、どうするのか。

### ○設計業務委託者(株式会社山下設計 箆島氏)

コンクリートの圧縮強度については、ぎりぎり使用に耐え得るレベルにあると考えているが、これ以上、中性化が進まないようにするなど、そうした対策も含めて、今後検討したいと思う。

耐震性不足については、一階部分が特に脆弱になっているため、必要に応じて耐震壁を新設することとしているので、耐震性は確保できる。二階、三階についても、一階ほどではないが、やはり少し劣る部分があるので、耐震壁を増やしていく。

### ○高田委員

解体して、Eの字型から、増築部分はI型になると思うが、もとの形を残すというような検討はあったのか。

### ○森次行政経営課長

保存の範囲については、これまでの有識者による会議において、教育施設であった被爆建物を知の拠点として活用するということと、被爆建物として保存するという二つの視点から議論され、意匠上の特徴を有する正面を残すことになり、その後、知の拠点の機能として必要な諸室、面積の確保といったことを踏まえ、後背部を増築することに決定している。なお、後背部を増築することとしたのは、耐震対策に伴う壁の増設等により諸室が小分けになり、講義や会議といった大空間が確保できないなどの理由によるものである。

### ○高田委員

今の建物のままでは使えなかったということで、形を変えるということだったのか。

中は中で、結構耐震壁があるのか。何か取れないような壁が中にたくさんあるような造りだったのか。

### ○森次行政経営課長

そうである。

### ○高田委員

新しいものがどのぐらいの大きさなのか、資料では分かりかねるが、規模的には何とかこのままでも使えるのではないかと思ったので、結構形が変わったことが少し残念だなと思った。

○中村委員

一つの建物に見えているが、中に入ってみると、保存部分が細長い建物になっていて、ドアを一つ入ると、増築部分はもう全く新しい空間なのか。それとも、保存部分と増築部分で、古いものと新しいものが両方同じ廊下で、左右で対峙しているような形なのか。少し融合するというか、両方見えるような形のコンセプトなのか聞きたい。

○森次行政経営課長

現在検討中であるが、新築棟と保存棟の間に吹き抜けを設けるといような形を検討している。

○中村委員

古いほうは、今ある部屋が割とそのまま残るような、保存するイメージなのか。

○森次行政経営課長

保存棟のほうは、なるべく当時の雰囲気が残るようには考えているものの、かなり経年劣化しており、相当な補修をしないと使えない。

○設計業務委託者（株式会社山下設計 箴島氏）

保存棟の廊下の両側の壁は、古いままの壁が残るような形になる。その廊下の片側は、古い部屋があって、廊下の反対は、廊下の窓から新しい建物が見えるといような形になっている。

正面玄関を入れて左側の情報発信・まちづくり活動ほか多様な活動等のためのエリアについては、保存部分と新しい部分を含めて、トータルでそういった活動のエリアを造り込むような形で、今検討している。運営管理のためのエリアについては、一般市民の方などは入ることがあまりないエリアのため、必要な機能に応じて、今の間仕切りも生かしながら、部屋を構成していこうと検討している。

○今川委員

ロンドンにあるテートギャラリーの旧建物に新築をくっつけるようなイメージで考えているのか。

○設計業務委託者（株式会社山下設計 箴島氏）

テートギャラリーは少し規模が大き過ぎるが、あの場合も、やはり古いものと新しいものをうまく対比させながら融合していくようなデザインだと思う。そのようなイメージをしているところだが、歴史的な建物の利活用、保存、再生に非常に詳しい先生方の意見も取り入れながら、ヨーロッパの事例も研究しながら、今から詰めていく。

○吉田委員

保存範囲について、いずれの案も、ファサードを中心として、そこだけは残すという案だと思う。今日、現地を見て、この森戸道路のアプローチからの視点は、やはり残すべき眺望景観だと思った。

近隣には高層のマンションが多く、今後も高層化が進むと思うので、屋上の見え方も少し配慮が必要ではないかと思った。特に屋上は、新しい建物だと、設備機器等いろんな附属物が出てくると思う。そういうものが森戸道路のアプローチからできるだけ見えづらいような配置の仕方を工夫することも必要だと思う。

保存される元の入り口は、おそらくバリアフリー化されていないと思うので、両脇に新しい出入口ができると思うが、確実にバリアフリー化をしていただきたい。正面入り口のほうは、何か特別なバリアフリー化というのは、現時点では考えているのか。それとも、現状の階段をそのまま残すような方向なのか。

○森次行政経営課長

正面のバリアフリー化については、広島市公共福祉環境整備要綱に基づいてスロープを設置する予定である。その際、保存している部分と、バリアフリー化で設置したものが、見て分かるように留意していく。

## ○吉田委員

保存される建物の特徴を壊さない範囲で行うということだと分かった。

保存部分と増築部分の境目について、上からの視点だと、ちょうど凹凸の形になっており、そういうものが屋上部分にも見えてくる。別の専門の方にお任せする話ではあるが、形を積極的に見せるのであれば、調和するのか、際立たせるのかという二つの議論の中で、方向性が決まってくるのかなと思う。

## ○角倉副座長

様々な保存のさせ方が現在存在し、東京駅の中央郵便局は、完全にファサードだけ残して、中は入れ替えている。そういうことが仮にできるとすれば、例えば、森戸道路側からのファサードとともに、市民に好かれてもらうためには、やはり東千田公園側に向けた外観の残し方というのも当然あると思う。特に、コミュニティー向けの施設が東千田公園側に入るので、西側と北側の残し方を少し工夫しても、全体としてバランスが取れるのではないかなと思う。

旧理学部一号館という建物の部分を可能な限り、部分的にでも残して、市民の方に触れてもらおうというのが一つ大事なところだとすると、例えば階段など、残しても面白そうなものが恐らくあると思うので、デザイン力で、市民の方に訴えかけていくというところに最大限配慮してほしい。この建物が公園脇にあるということ、コミュニティー向けの施設が入るという意味からすると、市民の方が昔の建物に触れる空間をいかに残していくかということを考えてほしい。

残念ながら解体する場所が出てくるということは、安全性など様々なことを考えれば、致し方ないと思うが、一方で、解体するということは、ただマイナスになるのではなく、何かデザインとしてプラスに変えていける、新しい建物の価値をそこからつくり出していくということは大事だと思うので、調和させるというより、むしろ何か際立たせるほうが意味があるのかなと個人的に感じる。解体するということをデザインすれば、被爆建物というものの残し方としては意味が出てくるのではないかなと思う。

## ○今川委員

真ん中の階段は残す方向で出っ張っていると思うが、その両脇の付け根のところにある、45度振った形の階段は保存する価値がないぐらい駄目になっているのか。

## ○設計業務委託者（株式会社山下設計 箴島氏）

中央階段は、玄関ホールと一体の空間を形成しており、建物の中の一番メインの空間になっているので、やはり残す方向で考えている。左右の階段については、ちょうど45度振れており、面白い階段だが、建築基準法上の防火避難規定を満足しようとする、保存部分に大きな支障が出る。また、階段の踏面と蹴上がばらばらである。やはり建物としての安全性は担保しなければいけないので、建築基準法で定められている防火避難規定を満足するような形で計画するには、この階段部分は取らざるを得ないかなと思っている。

## ○田中座長

それでは、皆様から御意見をいただけたと思うので、まとめをさせていただく。

一つ目は、保存部分と増築部分の境界の部分について、増築部分をどうするかということとも関連してくると思うが、やはり大事なポイントというお話があった。

二つ目は、屋上の見え方について、上からの視点に配慮が必要というお話があった。

三つ目は、バリアフリー化について、残していく部分とのバランスを配慮いただければと思う。

四つ目は、保存のさせ方について、いろいろ今世の中にあるので、それらを見て研究していただくと良いというお話があった。

五つ目は、建物と市民の方々が交流できるような機能というか、設え、デザインが必要ではないかというお話があった。私も東千田公園は非常にいい公園だなと思っていて、休日などに行くと、今までになかったような景色が広がっており、あの公園のポテンシャルを活かすような形で、この建築物が生きていくといいと思う。この公園と建物の間の境界も大事と思っていて、その境界のデザイン、御配慮いただけると良いと思った。

六つ目は、いろいろ事情があって解体をして、新しいものを造るので、むしろ新しい時代に先駆けて、際立ったものを造っていくという考え方もあるのではないかという御意見をいただいた。

七つ目は、階段のお話やこのE型の建物の形状もお話しをいただいたが、やはりなくさないといけない部分もあって、それはある程度致し方ないのかなと私自身思っている。ただし、そういう記憶を残すようなことを配慮していただけるといいのかなと思った。

#### ○吉田委員

先ほど森戸道路からのアプローチを残すべき眺望景観という話をしたが、これは、建物だけじゃなくて、メタセコイヤも含めて、ぜひ残すべき景観なのかなと思う。大学としてずっと学生だった人たちが、恐らくこの風景をずっと記憶として今でも覚えてらっしゃると思う。

#### ○田中座長

私も広島大学の教員としてもお願いできたらと思う。  
議事(1)については以上である。

#### ○田中座長

それでは、本日の議事(2)「浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（2回目会議）」の説明をお願いします。

#### ○井上施設整備担当課長及び設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

（議事(2)「浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（2回目会議）」の説明）

#### ○田中座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

#### ○吉田委員

建物の基本のコンセプトで、「守る」と「開く」という二重の構造というのは非常にユニークだなと思った。「保存公開コア」と「Link space」は、非常に対極的な空間になるのではないかと想像している。

そのときに、お互いが魅力的な空間となるような照明計画について、特に「守る」の中側の二階にある収蔵庫については、資料を守るという点では非常に重要だと思う。ただ、一階の展示・図書コーナー、それから、三階の閲覧室といった、一階、二階、三階で機能や目的が違うので、それに応じたきめ細かな照明計画が必要と思われる。

また、何時まで開館する予定なのか分からないが、当然、夕方から夜に、内部照明によって、特にこのルーバー越しに漏れてくる光は、日本的なイメージなのかなと思うので、外からの見せ方についての積極的な照明方法に配慮するといい建物になるのではないかと考えた。

#### ○角倉副座長

「守る」と「開く」のところの内観を含めたイメージが見られたら、よかったと思う。ぜひ魅力的な、「守る」と「開く」という、相反するものを表現できるデザインに仕上げてもらいたい。大変期待している。

また、「Link Lab.」という非常に面白い空間ができていて、ここは、5ページの右下のイラストと同じイメージなのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

イラストはプロポーザル時のイメージのため現時点の平面計画と異なるが、考え方としては一緒で、学芸員の方と直接市民の方が交流して、資料を見たり、市民の方々が集まって議論ができたといった様々な使い方を想定している場所である。

○角倉副座長

文書の保存などに対して、やはり市民の方は、なかなか想像できないところもあると思うので、ぜひこの空間を大切にしてもらえたらいいと思う。逆にそれが外から見えるみたいなのところも大変期待している。

前庭については、特に何も設けずに、さらっと開かれるのか。何か人が集まりやすい仕掛けをこれから考えていくのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

これから詳細に検討するところであり、少し座れるような仕掛けや、観光客等によるSNSアップをとおした周知を誘発するようなきっかけづくりを提案したいと思っている。

○角倉副座長

前の道を歩いている人たちが、ふとここで立ち止まるような仕掛けをされるということだと分かった。この施設に入らなくても、ここに人が集まっているみたいなの状況ができるといいなと思うので、そこのデザインも期待している。

○今川委員

縮景園は、よく七五三や成人式などを機会に着物を着た人が写真撮影のスポットとして使っているのだが、どこから撮っても周りのビルが写り込む。整備場所の北側にある縮景園の細い小道の辺りについては、ビルが写り込まず、着物が映える撮影スポットということで列をなしていることを目にした。北側は木に隠れて見えないという説明だったが、計画にある奥庭というところで、今ある木を切って、新しく若い木を植えるのであれば、しばらくの間は、背景が建物になるのかなと心配しているが、どうなのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

基本的に高い既存樹木は残すこととし、新たに植栽をすることも考えている。既存樹木の高さを調べ、3Dモデルによる検証を予定しており、植栽の密度について今後の設計の中で検討していきたいと考えている。

○高田委員

外壁の仕上げについて、時を重ねるごとに風格が増していく外観計画ということで、すごく魅力的だなと思うが、鋼板に耐久性の高い処理を施すとあるが、その施し方もいろいろな種類があって、経年による変化もあるのかなと思う。風格が増してきた後の姿はどのようなイメージなのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

今回の計画は、材料を絞り込みながら、落ち着いたたたずまいにするとともに、例えば、コンクリートは、塗装でべったりとしてしまうのではなく、コンクリート自体の風合いや凹凸も含めて、材料自体の質感が見えてくるような形を目指している。時を重ねるごとに風格が増していくというコンセプトについて、周りの風景に対して違和感なく、徐々に溶け込んで、馴染んでくるような建物を目指している。年月が経つごとに朽ちていかない材料、耐久性もありながら、少し表情が変わっていく様が見えるような材料にすることを考えている。

○高田委員

材料からすると朽ちていかない。風格というと、割と自然材料的なものと思うので、少し朽ちていく様も美しいのかなと想像したが、材料が違っていたので、どのようなイメージなのか聞きたかった。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

コンクリートも少し色を入れるにしても、塗るというよりは、染めるというような、含浸する塗料を使って、コンクリートの風合いは残すことを考えている。そうはいつても、雨風で少し新築のときとは違う、物としては変化していくというような材料を考えている。

○今川委員

そのコンクリートの化粧打放しというのは、どのような表面になるイメージなのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

軒先と壁等も含めて、どういうテクスチャーがいいかというのは、いろいろモデルを作りながら、凹凸のある形で陰影が出るような材料を検討していきたいと思う。

○中村委員

前庭部分は、夏は一日中照らされてまぶしいぐらい反射して、恐らく、その光が建物の一階、二階のほうに差し込んできて、傾斜しているので見えづらいかもしれないが、内部から見ると、外が非常に明るく見えるようなイメージなのかなと思う。冬至は、昼ぐらいからずっと日陰なので、昼といっても、内部の光がむしろ前のほうに漏れてくるような感じだと思う。

そういう意味では、はっきりと季節感が建物の印象の変化をつけられるのかなと想像している。そこは、和の要素というところと非常にマッチする期待感がある。中間領域の構成というところでは、光は内と外で影響し合うと思うので、いろんな素材、質感なども内と外がどこかつながっているような形で展開していくと、より和の空間になっていくのかなと想像した。

○田中座長

それでは、皆様から御意見をいただけたと思うので、まとめをさせていただく。

一つ目は、照明計画について、中の「守る」空間や、夜の外からの見え方に配慮いただけたらというお話があった。

二つ目は、「守る」空間と「開く」空間について、それらが共存しているというところが一つの魅力ではないかということで、それが生きるようなデザインになると良いと思う。

三つ目は、「Link space」についてだが、この建物の大きな魅力なので、そこをうまく空間としても、システムとしてもデザインできると良いと思う。

四つ目は、文化の道とのインターフェースになる前庭について、ここに集まりやすい仕掛けがあると良いというお話があった。これは、私も同様に思っていて、座るところを検討されているとのことだったが、それは大事で、恐らく、ここに座る方の中には、ここがどういう施設なのか分からない人も多いと思うので、それが分かるきっかけがあると良いと思う。夏のことを考えると、あまり反射率が高過ぎないほうが良いと思う。いずれにしても、ここは、この建物を魅力的にする一つの大事な要素と思った。

五つ目は、縮景園を利用される方々からの見え方について、境界の部分のデザインに配慮いただけたらというお話があった。

六つ目は、外壁について、時が経つにつれて風格が出てくるところが一つ大事なコンセプトとしてあるので、今後検討いただけると良いと思う。

七つ目は、内と外のつながりについて、素材や視線を意識していただけると良いと思った。

議事(2)については以上である。

○田中座長

それでは、本日の議事(3)「平和大通り公園整備事業（第1期整備）について（報告）」の説明をお願いします。

○小山専門員

(議事(3)「平和大通り公園整備事業(第1期整備)について(報告)」の説明)

○田中座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

○今川委員

河原町のバス停のところに現状置いてあるベンチは、途中で肘かけがあるタイプだが、今後設置されるベンチも肘かけ付きなのか。

○小山専門員

手すりの位置については、中央の二か所にして、三面分に分割する形ではなく、ベンチの両サイドにある形のものにしたいと考えている。

○今川委員

子供を横にしようとしたときに、使えなかったことがあったので、いいと思う。

根が張ってきて園路が凸凹にならないように配慮されていると思うが、根系誘導耐圧基盤の深さは60センチで支障ないのか。

○小山専門員

実施設計をする中で、樹木医の意見等も聞きながら、深さの設定をした。

○高田委員

展望デッキは、木質系の素材を使用しているので有機的ということだが、角があって少し堅い感じがした。せっかくここは子供たちの楽しい場所なので、もう少し有機的な形を検討してはどうかと思った。

○中村委員

平和大通りは、平和記念都市の建設のため、広島市のシンボリックな通りであるということ、それから、整備の方向性でも、平和や芸術を発信できる通りとするとあり、広島市の顔となる場所であるということは、そこに設置するものも、やはり広島市の顔になるようなものを設置するべきである。

そうしたとき、あずまやがそうなのかというのは、個人的に気になった。素材や形はもう変えられないのかもしれないが、色などで少し目的に沿ったものに変えられないか。個々で見るというよりも、非常に東西に長い通りなので、その中で、このスポットごとの設置物がどのように見えるかということが大事なのではないかなと、前回の会議の後、そういう目でなかなか見ていなかったなと思って、ずっと両サイドを歩き回ってみた。やはりいろんなものがぼつぼつと断続的に造られていて、歩道も、場所によって造られている時期が違うので、当然だと思うが、いろんな意匠がパッチワークのようにつながっていた。

今回の整備で更にそれが増えるようになるよりも、平和大通り全体が一体的なものとして整備される方向に、少しずつ、市のシンボルとなっていくようなクオリティーの高い通りにしてほしい。そうすると、若い方や観光客の方が来てよかったなと思ってくれる通りになるのかなと思った。

○吉田委員

この平和大通りの整備事業について、何年か前からずっと話を聞いているが、いつも区間が、鶴見橋西詰から、西側へ行って緑大橋止まりである。平和大通りとは、新己斐橋の東詰までなので、そこまでの全体計画をやはりどこかの段階ではつくるべきで、それがあって、個々のゾーンの考え方という順序が正しいのかなと思う。

平和大通り全体を見ることができる視点場が、比治山に復活した。私が広島に来て約30年経つが、初めて平和大通りをきちんと見渡せたので、非常に感動した。

20年後は、被爆100周年という節目の年である。そこに合わせた、平和大通り全体の基本構想をもう一度どこかですべきだと強く思う。

平和記念公園が中心になると思うが、そこから東と西で、どういうゾーン分けをするのか、照明計画一つ取ってもそうだと思う。それぞれのゾーンに置かれるような機能や施設にもつながってくると思うので、ぜひどこかの段階で基本構想を考えるという取組を始めてもらえたらいいと思う。

#### ○角倉副座長

やはり何か製品を置くみたいなことは、なるべく避けてほしかったと個人的に思う。子供の遊び場も普通の遊び場ではない、ここにしかできない何か子供を育てる仕掛けをデザインしてほしかったと思うが、これからまた整備される場所もあるということなので、そこで期待したいと思う。

トイレは、樋がついているのか。片流れの屋根になっていて、その高い側に入り口が設けられているので、ちょっとした雨でも皆ずぶ濡れになるリスクがすごく高い。間に合うのであれば、入り口の部分に、せめて小さな小庇でもつけてもらえると、使い勝手が良くなると思う。

雨の流す位置をA棟は西側に、B棟は東側に流すようになっているが、排水は気にしなくてもいいのか。雨樋がない場合は、雨水が勢い良く落ちるので、公園が本当に汚くなって、ますます裏が使われなくなるという、良くないデザインになっていると思うので、今からでも樋をつけたほうがいいのではないかと思った。

展望デッキのベンチの向きは、何か意味があるのか。

#### ○小山専門員

配置した場所を踏まえて、遊具のある方向などを見ることができる向きにしている。

#### ○内田主任技師

小さい子供が上ったときに柵から落ちてはいけないので、少し離れた位置にしている。

#### ○角倉副座長

そうすると、ベンチはこの形状ではなくても、例えば、L字のものにするだけでも全然違うと思うので、ベンチの種類を変えるとできることも変わってくるかなと思った。

#### ○内田主任技師

トイレについてだが、雨樋はつけていない。維持管理を考えたときに、木が多い場所のため、恐らく葉っぱが落ちてすぐ詰まるだろうと想像し、あまり目に触れにくい人が歩かない場所へ落とすというような考えで、今の構造になっている。

#### ○角倉副座長

雨が落ちてきて、その勢いで地面が削れていって恐らく本当に汚い場所になってしまうと思うので、雨樋はあったほうが良いと思う。

#### ○内田主任技師

周りには、透水性の舗装もやる予定ではある。

#### ○吉田委員

ベンチに背もたれは必要なのか。両側からアクセスできたほうが、いろんな方向に対応できるのでいいと思う。そうすると、この向きも、もう少しシンプルな考え方ができるのではないか。

#### ○内田主任技師

検討する。

#### ○今川委員

展望デッキの手すりは、小学校二、三年生ぐらいの男の子が、眉間とかをぶつけてしまう高さだと思うので、角を取る、打たないような高さにするなど、配慮してほしい。

ユニバーサルトイレの前に庇がないのは、やはり良くないと思う。車椅子は、ただでさえ滑りやすく、いろいろやらないといけないことがあるので、ユニバーサルトイレの入り口だけでも何とかしてもらえたらと思う。

## ○田中座長

それでは、皆様から意見を頂けたと思うので、まとめをさせていただきます。

一つ目は、広島シンボル、広島顔となる通りなので、前回の意見でもあったが、やはりある程度、質の高いものがあってほしいというお話があった。そう考えたときに、（少し今回の話とはずれるかもしれないが）全体の構想、ビジョンみたいなものが、やはり必要と思うので、それに対して一定の投資が必要と私も思った。

二つ目は、展望デッキやあずまや、遊具も、やはりここならではというところがもう少しあると良いというお話があった。

三つ目は、もしかしたら対応可能かもしれないというところで、トイレの庇や雨樋、展望デッキのベンチについて、少し配慮できる余地があれば、配慮してもらえると良いように思った。

実施設計が終わっており、大きな変更は難しい面もあると思うが、検討の余地がある部分については、検討いただきたい。

議事(3)については以上である。